セットアップ手順

以下の2種類のアップデートの適用が必要になります。

アップデート名	対象OS
Ⅰ.クライアントシステム　アップデート	Windows 8、8.1、10、11
Ⅱ.サーバーシステム　アップデート	Windows 8、8.1、10、11

1.スタンドアロン環境（データ、マスタも同じＰＣ）

Ⅰ、Ⅱのアップデートを実行します。

2.クライアントサーバー環境（データ、マスタが異なるＰＣ）

①クライアント環境でのセットアップ

Ⅰのアップデートを実行します。

②サーバー環境でのセットアップ

Ⅱのアップデートを実行します。

（注意）

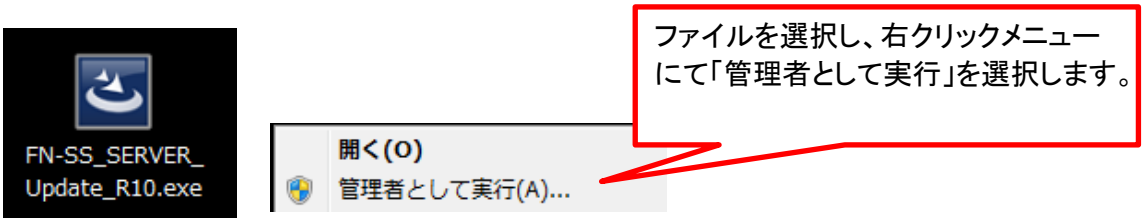
・インストール時はシステム終了し、クライアントサーバー環境では、誰もログインしていない状態で実行してください。

・クライアントサーバー環境で、クライアント側だけインストールし、サーバー側をインストールしていない場合、クライアント側の操作時にエラー発生する場合があります。
サーバー側もインストールしてください。

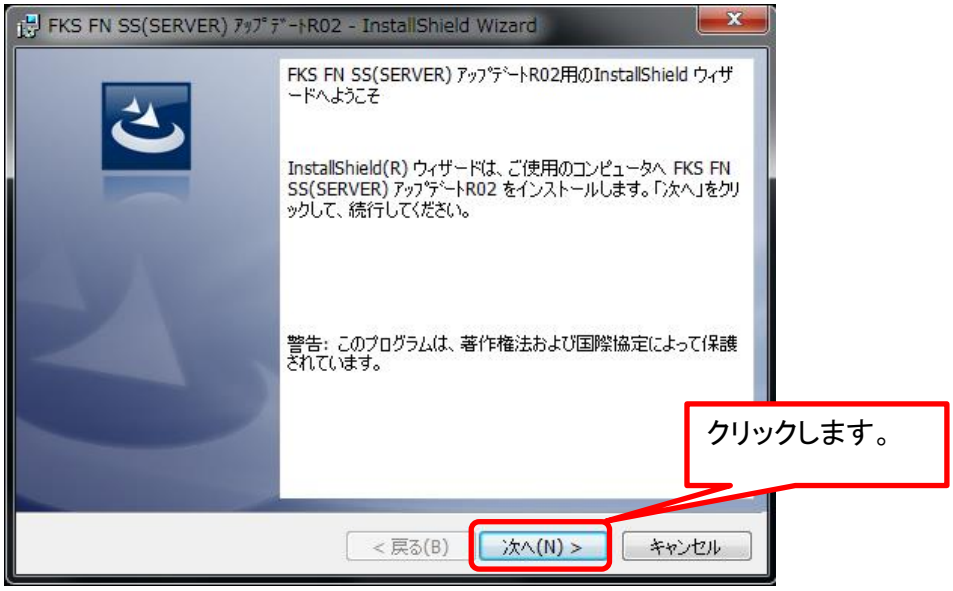
サーバーシステム　アップデート

管理者権限のあるユーザーにてインストールしてください。

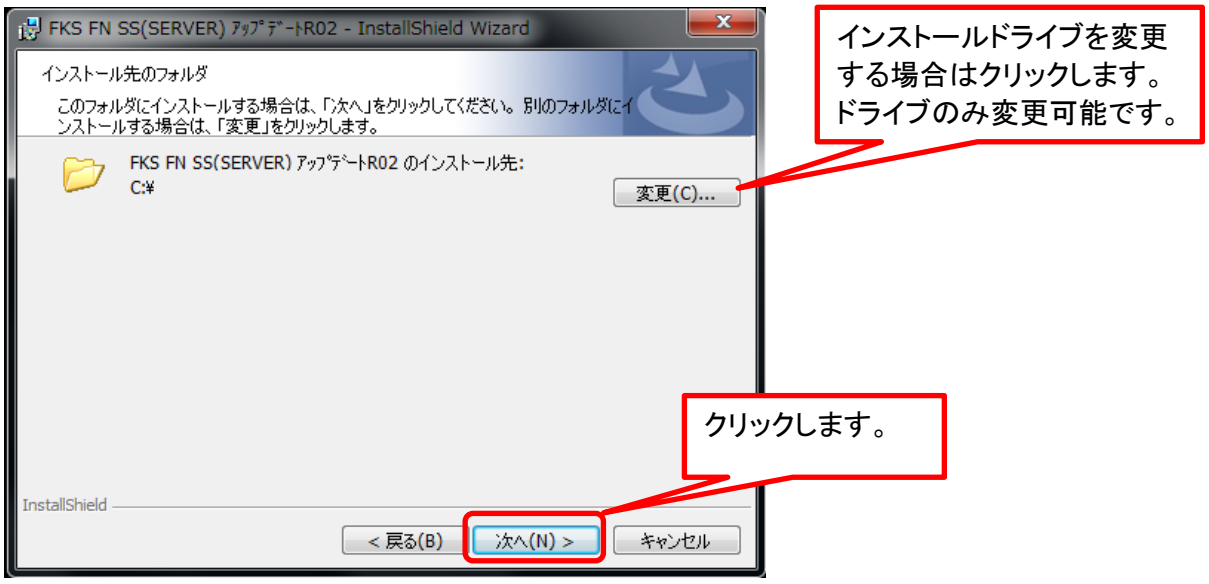
1．ダウンロードした「FN-SS_SERVER_Update_R54.exe」を
　「管理者として実行」します。



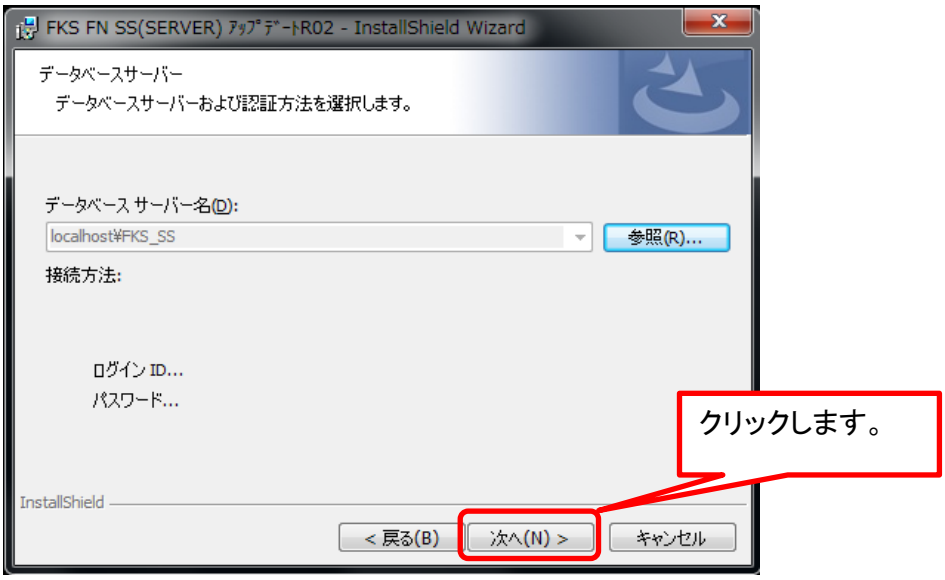
2．アップデート画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



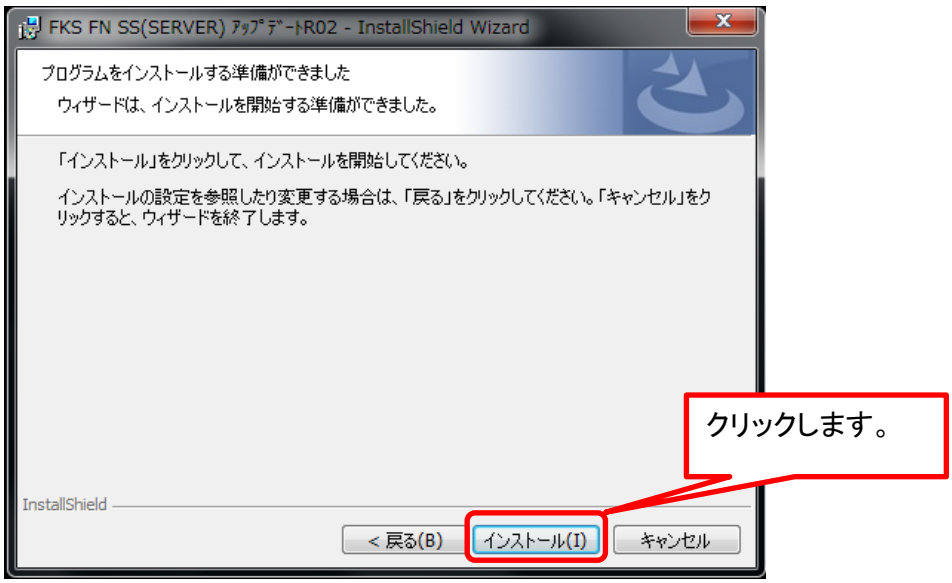
3．インストール先のフォルダ画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。

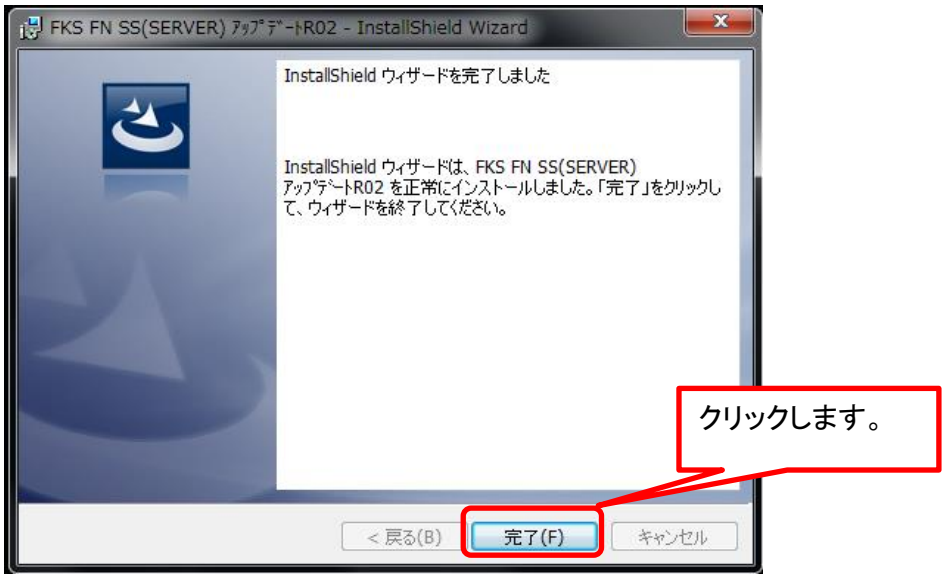


4．データベースサーバーの画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



5．「インストール」をクリックします。





以上で終了です。

ＦＫＳ／ＦＮ　ＳＳ　　ソフトウェア修正情報

NO.	項　目	内　容	製品リビジョン				
			36-50	51	52	53	54
1	仕上リスト	集計タイプが２もしくは４のとき、「集計パターン設定で入力した内外及び仕上コードを入力する」で表示されるSEQに誤りがある問題を修正しました		○			
2	集計パターン	集計パターンで集計コードあり内外集計なしのケースで、科目別集計画面で編集・保存すると規格のみ行が非表示になってしまう問題を修正しました。		○			
3	計算	建具拾いのみの物件で計算エラーとなってしまう問題を修正しました。		○			
4	計算	細目チェック処理で長い時間経過し、エラー・ワーニングもなく計算が終了してしまう問題を修正しました。		○			
5	KBL	KBL認証をTls1.2に対応しました。		○			
6	仕上拾い	仕上拾いで行数が多い部屋をコピーし、コピーした行数より少ない部屋をツリーで選択するとエラーになる問題を修正しました。			○		
7	仕上拾い	仕上部屋一覧・仕上拾い編集画面で変更時にCtrl+Sで素早く複数回保存を実行すると、増減式が重複する問題を修正しました。			○		
8	外部入出力	部位別集計形式のcsv出力において、データ量が多い場合でも出力できるようにしました。			○		
9	ショット、図面	下図オンの場合に寸法・面積などがマウスで選択して移動できない問題を修正しました。			○		
10	ショット、図面	CADデータを下図にした場合に部屋名が表示されないことがある問題を修正しました。			○		
11	ショット、図面	長さ情報画面から連続拾いをすると線分の表示がおかしくなる問題を修正しました。			○		
12	仕上拾い	仕上拾いで画面操作中にコピー貼り付けなどが使用できなくなる問題を修正しました。				○	
13	外部入出力	部位別集計形式のcsv出力において、一部数量が出力されない問題を修正しました。				○	
14	拾い	付箋が保存されない問題を修正しました。					○
15	仕上拾い	仕上拾いでメモリ式に「OGG」など先頭0の入力をし、同じ行の増減式を削除し、空にするとエラーになる問題を修正しました。					○
16	仕上リスト	仕上リスト編集時に、特定の操作をすると内容が崩れる問題を修正しました。					○
17	建具計算書	建具計算書で、建具廻り材料の出力順が画面と異なる問題を修正しました。					○
18	部位別集計	部位別集計画面でコピーをするとエラーになる問題を修正しました。					○
19	科目集計	科目別集計で規格名を変更した際、意図しない箇所の名称も変わってしまう問題を修正しました。					○
20	科目集計	科目別集計帳票において、変換係数1.00の場合に根拠が備考に出力されるようにしました。					○

※ 上記〇印がお使いの製品バージョンによって発生する現象になります。

製品バージョンは、プロジェクト・物件一覧画面のオプションより確認することができます。

インストール後は、1.0.0.54になります。

※ 今回の修正版をインストール後、上記現象に該当する物件を再計算すると、前回の結果と異なった数量が算出される場合があります。